

令和4年度

研修案内

CTC 兵庫県まちづくり技術センター



仮設構造物設計



ドローンを活用した災害調査



地盤調査・土質試験演習



土地区画整理研修

● 業務案内、機関誌CON-TECHひょうご

デジタルブックでご覧いただけます (バックナンバー掲載)



業務案内 2021



CON-TECHひょうご



研修レポート

兵庫県及び県内市町職員の技術力向上を図るため、階層別研修や分野別に専門知識を習得するための研修を企画・運営しています。

ハイブリッド研修 (ライブ配信) 本会場の研修をライブ配信し自席や会議室、自宅でもリアルタイムで受講できます。

オンデマンド研修 (録画配信) 録画配信により職場や自宅で何度も見返したりしながら受講できます。

県・市町職員対象 **ドローンを活用した災害調査**

開催日：【基礎編】12/1(月) 【実務編】12/8(水)
受講者：【基礎編】50名 【実務編】44名

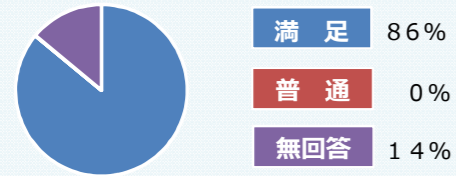
★研修目的

災害発生時に被災状況を把握する災害調査において、ドローンを活用できるように法規制等の基礎知識及び具体的な活用方法を習得する基礎編とともに、実際に実機操作を体験する実務編を通じて災害復旧に携わる県・市町職員の実務能力向上を図る。

★研修参加者の声

- ☑基礎編の座学と実機操作の実務編のバランスが良く、受講の満足度をいただける内容であった。
- ☑基礎編、実務編ともに半日にぎゅっと詰まった内容でしたが、量も質も兼ねており、大変有意義でした。

★満足度



県・市町職員対象 **まちづくり研修**

開催日：2/25(金)
受講者：70名

ハイブリッド研修(ライブ配信)

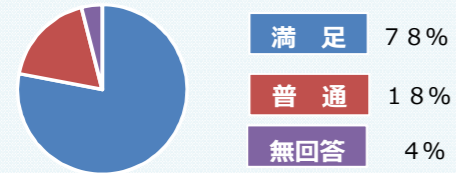
★研修目的

東日本大震災から10年という節目を迎える一方、今後、発生が懸念される「南海トラフ地震」に備える「復興まちづくり」をテーマに、復興事前準備、住民との合意形成、基盤整備手法、官民連携などの事例紹介を通じて、防災・まちづくりに関する幅広い知識の習得を図る。

★研修参加者の声

- ☑もし震災が起こった時、市や市民のためにいち早く行動することができる職員でありたいと感じました。
- ☑事前に避難所を作ることを想定して敷地を確保するなど、事前対応の重要性を深く学びました。

★満足度



県・市町職員対象 **現場研修**

開催日：2/24(木)～3/18(金)
受講者：133名

オンデマンド研修(録画配信)

＜洲本土木事務所主催「福良港湾口整備事業(煙島水門)現場見学会(録画配信)」＞

★研修目的

南海トラフ津波対策事業の一環として進めている福良港湾口整備事業「煙島水門」は、全国的にもめずらしい海底設置型水門であるため、より多くの建設事業担当職員を対象に、施行状況などドローン映像を交えて現場研修を開催する。

★研修参加者の声

- ☑動画やドローン映像が組み込まれ、説明や現地の状況、施工手順がよりわかりやすい。
- ☑次回も他現場の録画配信を希望する。
- ☑担当分野外への研修参加はためられるため、現場研修の録画配信は、職員の研鑽、資質向上に極めて有効な手法である。

★満足度



令和4年度 研修実施コース一覧

■ 階層別技術研修（県職員）

人数：（上段）は募集人数 下段は参加人数

部門	研修コース	日程	会場	人数	対象者	研修目的
県職員階層別研修	新規採用職員研修（前期）	5月頃	—	（30人） 人	県職員	新規採用された総合土木職員を対象に、技術公務員の仕事、土木基礎知識、積算システムの概要等により基礎知識を習得する。
	新規採用職員研修（後期）	7月頃	—	（30人） 人	〃	新採研修（前期）終了後、事業の概要（道路、河川、水防活動他）、工事成績評定、設計変更のポイント、積算システム操作演習、現地設計実務演習等を研修することにより、実務能力を養う。
	フォローアップ研修（前期）	6月頃	—	（20人） 人	〃	採用2・3年目の総合土木職員を対象に、土工、斜面安定・業者（工事）指導のポイント、成績評定の実務（考査項目別運用表）、工物品質管理と監督検査等の研修を行い、技術力の向上を図る。
	フォローアップ研修（後期）	10月頃	—	（15人） 人	〃	採用3・4年目の総合土木職員を対象に、公共事業を取り巻く環境、成績評定（施工プロセスチェック）、総合交付金の制度、建設業法、課題解決、土木構造物の不具合及び確認方法等について研修し、技術力の向上を図る。
	中級研修	9月頃	—	（15人） 人	〃	採用5年目の総合土木職員を対象に、品確法・工事監理ポイント、設計書作成のポイント、成績評定の実務、公物管理事務、ダム管理・地元説明会（企画・演習）等について研修し、土木技術の専門知識を習得する。
	主任研修	6月頃	—	（20人） 人	〃	主任に昇格した総合土木職員を対象に、都市計画制度、公共事業を取り巻く環境、建設業法・現場研修、積極的広報、入札契約制度、受注者指導、演習（課題解決）等について研修し、職場の中心的役割を担うための知識を習得する。
	主査研修	11月頃	—	（20人） 人	〃	主査に昇格した総合土木職員を対象に、公共事業を取り巻く環境、主査の役割・求められる能力、設計書作成及び工事書類確認のポイント、会計検査等について研修し、主査として業務を進めるための知識を習得する。
	主幹・課長研修	4月22日	—	（30人） 人	〃	監督職に昇格した総合土木職員を対象に、公共事業を取り巻く環境、工事検査、工事中の安全対策、積極的広報、不当要求事例と対処方法、監督職としての心得等について研修し、監督職としての見識と監理能力の向上を図る。

※兵庫県と共催

■ 階層別技術研修（市町職員）

市町建設事業担当職員研修	新人・初級研修	5月18日 ～ 5月20日	学校厚生会館等	（30人） 人	市町職員	建設事業の経験が概ね3年以内の職員を対象に、講話、土木工事の監督基礎、コンクリート構造物の基礎知識と老朽化対策、土木工事の積算演習、測量実習（水準測量等）、現場研修を行い、職務に必要な基礎知識を習得する。
	災害復旧実務研修（基礎コース） 【オンデマンド】	6月上旬	—	（40人） 人	〃	災害復旧事業の経験がなく、河川・道路事業の実務経験が少ない市町職員を対象に、災害復旧事業に関わる基礎知識を習得する。
	中級研修	6月10日	県民会館	（40人） 人	〃	建設事業の経験が概ね10年程度の職員を対象に、公共工事の品質確保、適正な契約（官製談合防止）、会計検査について研修を行い、公共事業の適正な執行に関する知識を習得する。
	災害復旧実務研修（実務コース）	7月1日	県民会館	（40人） 人	〃	災害復旧の実務経験が3年程度の市町職員を対象に、災害査定設計書作成における留意事項等の基礎知識を習得し、被災した公共土木施設の被災メカニズムを把握して、災害に対応する実務能力向上を図る。
	現場監督員実務研修	12月2日	国土交通省 近畿技術事務所	（20人） 人	〃	建設事業の経験が概ね5年程度の市町職員を対象に、アスファルト工事の品質管理、出来形管理、現場透水試験等の実習を行い、現場監督員として必要なアスファルトの知識を習得する。〔コンクリート編との隔年実施〕

■ 専門分野別技術研修（建設）

専門分野別研修	河川講習会（計画）	5月20日	兵庫県立人と自然の博物館	（40人） 人	県職員 市町職員	入門河川計画（基本高水）、みお筋・瀬と淵の保全を踏まえた河川計画の作成、多自然川づくりの事例の研修により、河川計画の基本的知識を習得する。
	支持力計算演習（初級コース）	6月2日	県民会館	（40人） 人	県職員 市町職員	地盤調査の基礎を中心に、調査結果の設計への適用や直接基礎を中心とした簡易な計算演習により、支持力計算等の基礎知識を習得する。
	道路計画演習	6月17日	〃	（40人） 人	〃	道路の基本条件の考え方と演習、道路線形に関する考え方と演習、道路計画演習を行い、道路計画の立案、設計についての基本的技術を習得する。
	災害復旧 【ハイブリッド】	7月14日	〃	（150人） 人	県、市町職員 防災エクスパート	災害復旧制度、災害査定実務、災害復旧事業の留意点、特殊災害の研修により、災害実務に関する基礎知識を習得する。
	砂防OJT	（調整中）	—	（15人） 人	県職員	豊富な経験と優れた見識を有する兵庫県土木職員のOB職員からなる「ひょうご土木技術マイスター」及び県庁砂防課職員の指導による砂防堰堤の概略設計及び手書き図面の作成など直営設計を行い、若手技術職員の育成を図ります。
	土木機械設備（河川・海岸）	7月27日	県民会館	（40人） 人	県職員 市町職員	土木機械設備の概要、排水機場の施設構成、維持管理と故障対応など、機械設備に関する基礎知識を習得するとともに、実務能力の向上を図る。
	砂防	7月下旬	—	（40人） 人	県職員	砂防事業に関する知識、砂防施設等の設計のポイント等の研修により、砂防に関する基本的知識を習得する。
As舗装修繕・設計演習 【ハイブリッド】	8月上旬	—	（80人） 人	県職員 市町職員	舗装の施工及び施工管理、舗装の維持補修と工法の選定、TA法によるAs舗装設計演習の研修を行い、施工及び施工管理の留意点等について理解を深める。	

■ 専門分野別技術研修（建設）

人数：（上段）は募集人数 下段は参加人数

インフラ・メンテナンス研修

部門	研修コース	日程	会場	人数	対象者	研修目的
専門分野別研修	交差点計画演習	8月10日	県民会館	（40人） 人	県職員 市町職員	交差点計画と設計の進め方、交差点計画の留意点、交差点計画（設計）演習を行い、交差点計画の基本的技術を習得する。
	公共測量 【オンデマンド】	8月上旬	—	（40人） 人	〃	公共測量の実務と留意事項、公共測量の成果検定等の研修により、公共測量の品質確保に必要な基本的知識を習得する。
	構造物（擁壁）設計演習	8月17日	県民会館	（40人） 人	〃	構造物設計のポイント、重力式擁壁及び逆T式擁壁の安定計算、擁壁設計におけるミス事例に理解を深め、擁壁設計に必要な基本的技術を習得する。
	河川講習会（維持管理）	9月中旬	—	（20人） 人	県職員	兵庫県河川維持管理計画、樋門・樋管の維持管理、河川管理施設の維持管理点検の研修により、実務に関する基本的知識を習得する。
	仮設構造物設計演習	9月22日	県民会館	（40人） 人	県職員 市町職員	設計法の概要と地盤調査、設計外力と例題解説、自立式土留め工の設計計算演習、掘削底面の安定と地下水対策、周辺構造物への影響検討を通じて、設計のポイントと施工上の留意点等について理解を深める。
	水道	9月下旬	—	（40人） 人	〃	老朽化が進む水道施設の整備計画、資産管理の知識向上を図り、施設更新、将来の水需要に対応する施設の最適化に備えた技術力を習得する。
	鋼橋	10月上旬	—	（40人） 人	〃	鋼橋の概要、架設方法、保全工事における基礎作業と留意点の紹介、鋼橋の補強工法の研修により、実務に関する基本的知識を習得する。〔PC橋との隔年実施〕
	地盤調査（切土・盛土設計）	10月20日	—	（40人） 人	〃	構造物設計に必要な地盤調査の計画と結果の評価、圧密沈下計算演習、斜面の安定計算演習により、基本的知識を習得する。
	地盤調査・土質試験実習	10月21日	関西地盤環境 研究センター	（12人） 人	〃	ボーリング作業実施研修、柱状図作成演習、土質試験実習、土質試験結果の品質と利用方法の研修を通じて、調査・試験方法や試験結果に対する理解を深める。
	ドローンを活用した 災害調査（基礎編）	10月中旬	—	（30人） 人	〃	災害を想定した現場において実機による写真測量を行い、災害現場でドローンを活用した災害調査の実務能力を習得する。
	ドローンを活用した 災害調査（実務編）	10月中旬	—	（30人） 人	〃	〃
	コンクリート構造物の 施工と維持管理 【ハイブリッド】	10月下旬	—	（80人） 人	〃	コンクリートの基本的性質、施工管理の要点、調査診断、補強における設計・施工の留意点、構造物の劣化原因とその影響の研修により、施工から維持管理までの一連の基礎知識を習得する。
	橋梁メンテナンス	11月上旬	西日本高速 道路（茨木市）	（15人） 人	県職員	道路橋の構造、劣化損傷橋梁体験実習、道路橋点検の着眼点、損傷事例と補修対策に関する研修により、維持管理に必要な点検技術を習得する。
支持力計算演習（中級コース）	11月11日	県民会館	（40人） 人	県職員 市町職員	土質定数の考え方と支持力計算、直接基礎・杭基礎をテーマにした支持力計算演習を行い、設計に必要な地盤情報（土質定数）と支持力計算等について理解を深める。	
下水道 【オンデマンド】	11月下旬	—	（40人） 人	〃	下水道事業の概要、管渠・施設のストックマネジメント計画の策定手法、雨水対策手法、下水道事業におけるBCP計画の策定手法、機械・電気設備の維持管理など、下水道に関する基本的知識を習得する。	
道路橋メンテナンス	12月中旬	—	（50人） 人	市町職員	兵庫県道路橋定期点検要領（市町版）に基づく講義と点検実習、損傷事例と補修対策に関する研修を行い、維持管理に必要な点検技術を習得する。	
ICT施工 【ハイブリッド】	1月下旬	—	（40人） 人	県職員 市町職員	ICT工事の監理ポイント、工事検査についての研修により、ICT活用工事の発注者として必要な基本的知識を習得する。	

■ 専門分野別技術研修（まちづくり）

担当職員研修 まちづくり	土地区画整理研修	6月24日	学校厚生会館	（40人） 人	県職員 市町職員	土地区画整理業務に携わる職員を対象に、区画整理をめぐる最近の話題、区画整理のしくみ、換地設計、換地計画のしくみ、事例紹介等に関する研修により、基礎知識と実務能力の向上を図る。
	まちづくり研修	（調整中）	—	（40人） 人	〃	まちづくりに携わる職員を対象に、参画と協働による地域のニーズに対応したまちづくりや地区事例（講義と現地視察）を通じ、基礎知識と実務能力の向上を図る。

■ 現場研修（建設）

現場	現場研修 【オンデマンド】	10月下旬	—	（40人） 人	県職員 市町職員	県内の土木工事及びまちづくりについて、実際の現場を見学しながら研修することにより、土木技術者としての実務能力の向上を図る。
----	------------------	-------	---	------------	-------------	---

・新型コロナウイルス感染症の状況により、開催日、開催方法(オンライン対応)、カリキュラム等を変更する場合がございます。

・最新情報は研修毎に送付される実施要領またはホームページをご覧ください。http://www.hyogo-ctc.or.jp